

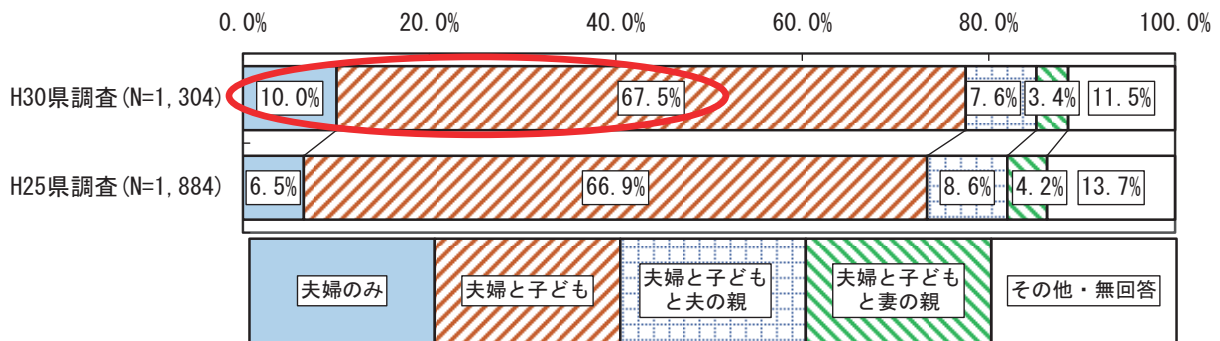
調査結果のポイント

1 夫婦の世帯構成 [参考ページ：P 4・5]

○独身者の約8割（76.0%）が親と同居しているが、結婚後の夫婦の約8割は核家族となっている。（下記図表A・「夫婦のみ」と「夫婦と子どもの世帯」）

[参考：奈良県の核家族世帯割合] 63.9%・全国一（H27国勢調査・分母に単身世帯含む）

【図表A 夫婦調査の家族構成】



2 子どもの数 [参考ページ：P 6～8]

○理想の子ども数（平均2.35人）より予定の子ども数（平均2.03人）は少なく、その差（0.32人）は全国と同水準

[全国数値] 理想の子ども数(平均)：2.32人 予定の子ども数(平均)：2.01人 その差：0.31人

[夫婦の現在の子ども数(平均) ※] 奈良県：1.97人、全国：1.94人

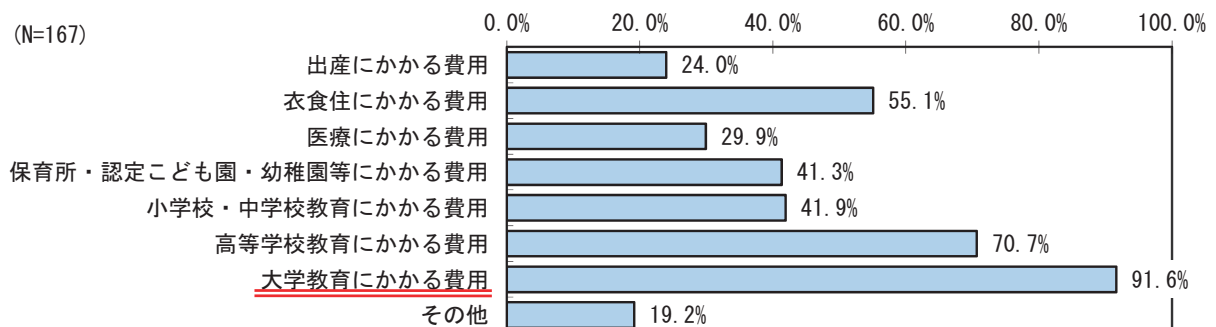
(※全国調査にあわせ結婚持続期間が15～19年の夫婦間の子ども数と定義)

○理想の子ども数を持たない理由の1位が「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」。その要因の1位は「大学教育にかかる費用」（下記図表B）

[理想の子ども数を持たない理由（降順・複数回答）]

- (1) 「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」 50.6%
- (2) 「高齢で生むのはいやだから」 30.1%
- (3) 「欲しいけれどもできないから」 22.1%

【図表B 子育てや教育にお金がかかりすぎると考える要因】(複数回答)



※「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」と回答した、予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦

3 子育ての楽しさ・しんどさ [参考ページ：P11～15]

○6歳未満の子どもがいる妻の子育ての心理的・精神的な不安感・負担感を「まったくそう感じる」割合（12.9%）は、前回（13.3%）に比べ微減したが、「どちらかといえばそう感じる」と合計すると（49.8%）やや増加（下記図表C）

[妻の身体的・体力的な不安感・負担感（下記図表D）]

- (1) 「まったくそう感じる」（12.7%・前回比較▲2.1%）
- (2) 「どちらかといえばそう感じる」（41.5%・前回比較+5.9%）

[妻の金銭的・経済的な不安感・負担感（次ページ図表E）]

- (1) 「まったくそう感じる」（18.1%・前回比較▲6.7%）
- (2) 「どちらかといえばそう感じる」（38.5%・前回比較▲6.3%）

○妻が最も不安を感じた時期は「出産前後」「新生児期」で、しんどかったことは「夜泣きで寝不足」なこと

[妻が出産前後に「とても不安」「少し不安」と感じた時期（降順）]

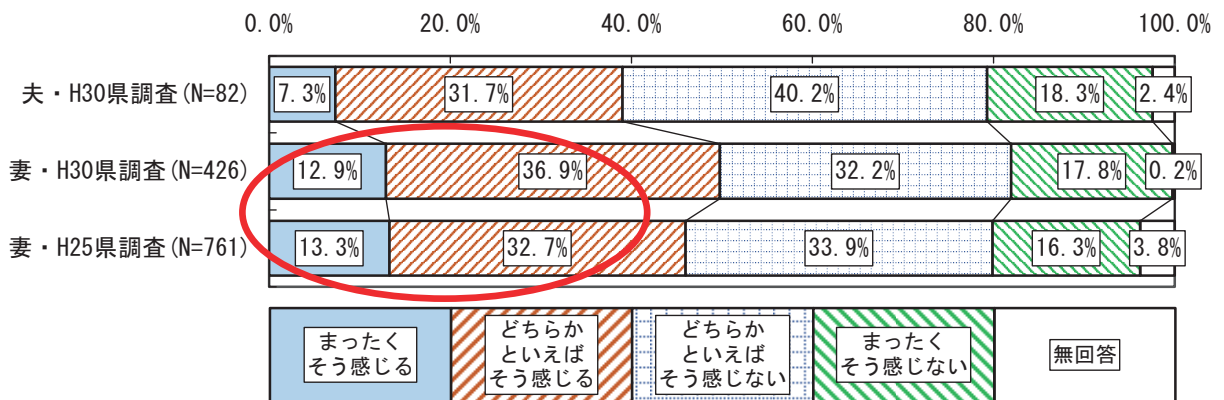
- (1) 「出産直前・直後」78.0% (2) 「新生児期（生後4週間まで）」77.0%
- (3) 「妊娠初期（～13週）」72.6%

[不安でしんどいと感じた要因（降順・複数回答）]

- (1) 「夜泣きで寝不足」46.0% (2) 「子育てについてわからないことが多い」41.6%

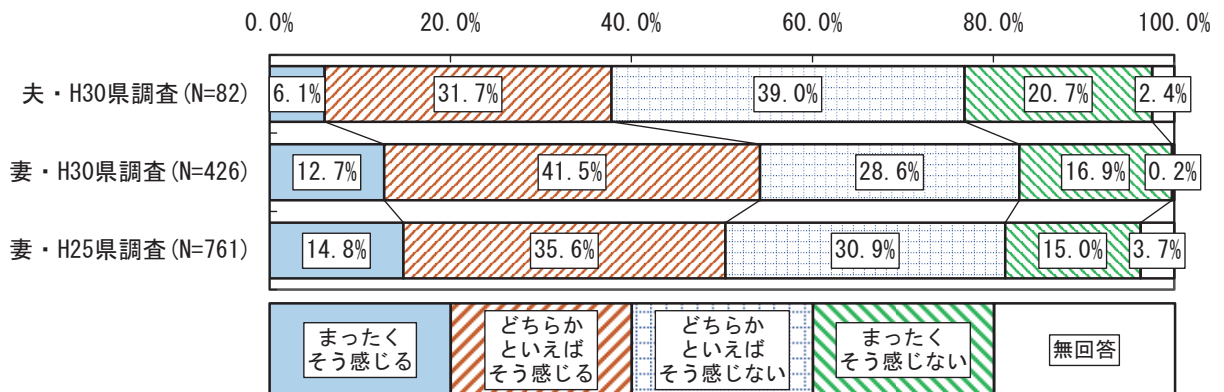
○独身者では子育てが「楽しいと思う」割合は約2割（17.7%）だが、約6割の夫婦が「子育ては楽しい」と感じている（夫58.5%・妻59.4%）

【図表C 子育ての心理的・精神的な不安感・負担感】

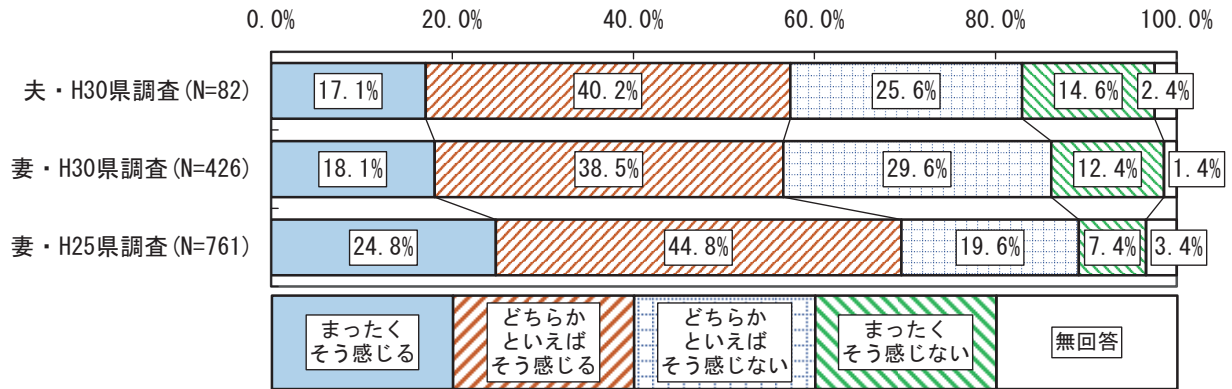


※6歳未満の子どもがいる夫婦（以下図表Eまで同じ）

【図表D 子育ての身体的・体力的な不安感・負担感】



【図表E 子育ての金銭的・経済的な不安感・負担感】



4 夫婦の子育て [参考ページ：P 16・17・26・27・30]

○妻の家事や子育てを一番助けてくれる人は「妻の母親」であるが、一番助けてほしい人は「夫」

[妻の家事や育児を助けてくれた人 (降順・複数回答)] 「妻の母親」63.8%、「夫」52.7%
 [妻の家事や育児を助けてほしい人 (降順・複数回答)] 「夫」57.9%、「妻の母親」32.3%

○育児の夫婦の分担状況は、「子どもをあやす」や「離乳食・食事」等12項目すべての項目で妻に負担が偏っており (約8～9割)、妻が一番しんどいと感じる「夜泣きの対応」(先述)では、夫の5割近く (45.8%) が「まったくしていない」

[妻が育児を「いつもしている」「ほとんどしている」の合計]

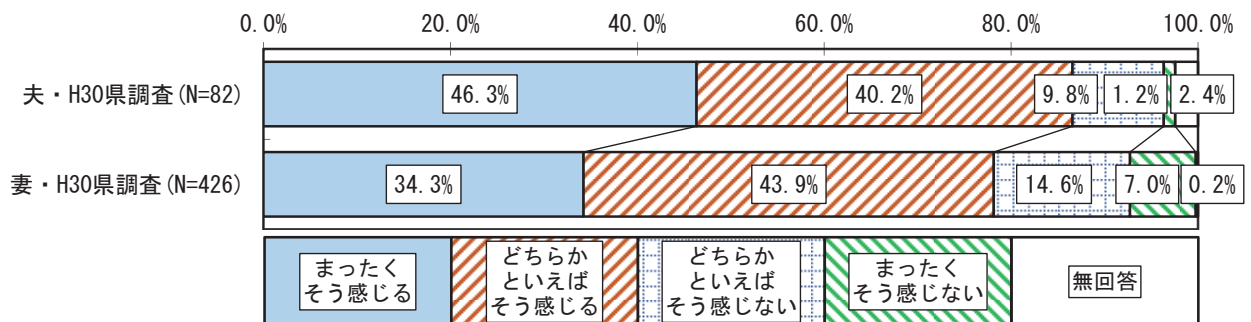
- (1) 9割前後が8項目→「子どもをあやす」「離乳食・食事」「オムツがえ」「夜泣きの対応」「子どもが病気の時、面倒を見る」等
- (2) 7～8割が4項目→「入浴・沐浴」「子どもと一緒に遊ぶ」等

※6歳未満の子どもがいる夫婦

○夫婦の子育ての一体感は、夫を感じるほどは妻は感じていない (下記図表F)

○子育てに関わっていない夫の理由は、8割近くが「仕事が忙しいから」 (78.9%)

【図表F パートナーとの子育ての一体感】



※6歳未満の子どもがいる夫婦

5 妻の就労状況

[参考ページ：P33～37・39]

○妻が第一子出産を機に退職した割合は、前回調査の約6割から約5割に減少
 (下記図表G・継続就業率が今回：52.8% ⇔ 前回：39.6%)。

○仕事を辞めた理由の1位は「家事・子育てに専念したい」から (49.0%)
 [辞めた理由2位] 「子どもが生まれ、仕事と子育ての両立が困難となったから」 (18.2%)

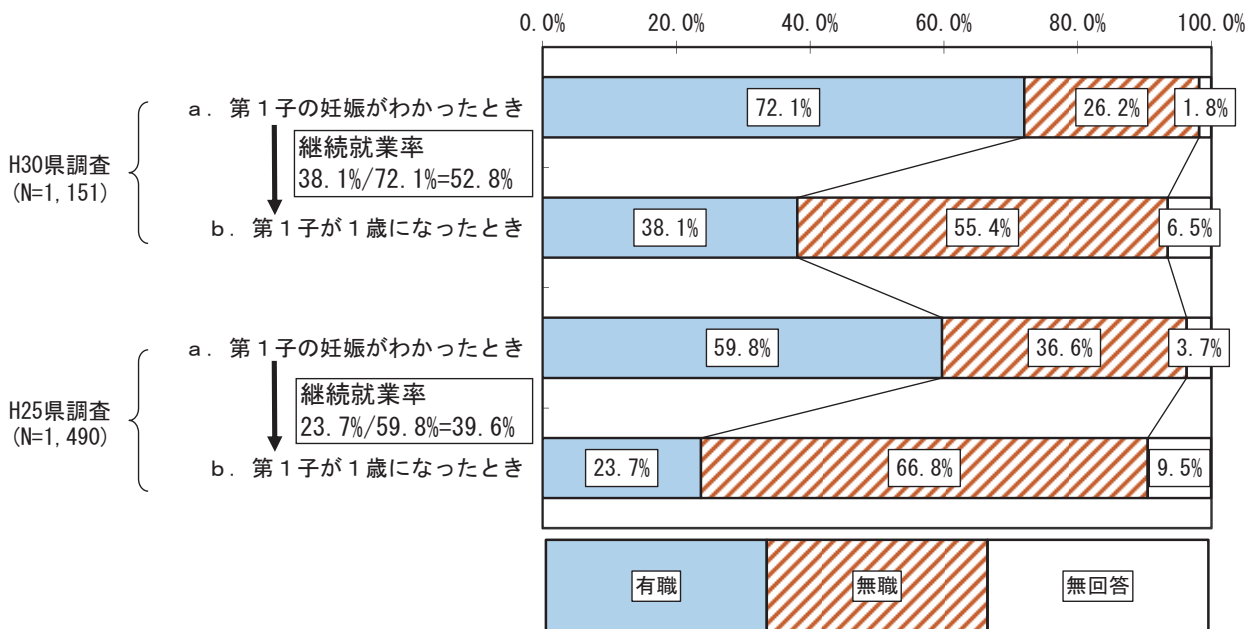
○妻の「正規職員」の割合が、末子が1歳の時 (4割) に比べ4歳以降では半減。反対に、「パート・アルバイト」の割合は1歳の時 (1割) に比べ約3倍かそれ以上となっている。(次ページ図表H)

○未就労の妻の約6割が働きたいと思っている (60.8%)。希望する勤務形態は、短時間勤務のパートやアルバイトが多く、希望する勤務条件は、子どものための休暇がとりやすく、家から近い職場であること

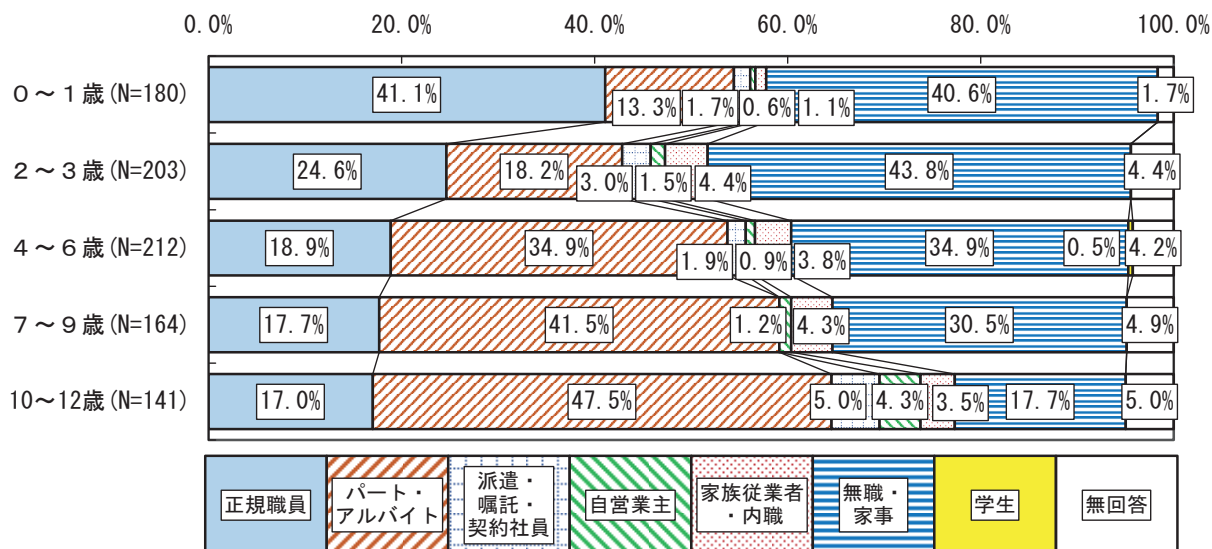
[妻の就労の条件 (降順・複数回答)]

- (1) 「短時間勤務ができる仕事があること」、「子どもの看護・授業参観・急病等の際に休暇を取りやすい職場であること」がともに58.2%
- (2) 「自分の知識・能力に合う仕事があること」31.1%

【図表G 第1子出産前後の妻の就労状況】



【図表H 末子の年齢別 妻の現在の就労状況】



6 結婚観 [参考ページ：P47・50～53]

○独身者の結婚意欲がある人の割合は、全国の水準とほぼ同程度（下記図表I）

○独身でいる理由の1位は男女とも「適当な相手にまだめぐり会わないから」だが、女性が結婚相手に「経済力」を求める割合は、全国平均より10ポイント以上高い

[独身女性（18～34歳）が結婚相手を決める際に「重視する」こと]

(1) 「相手の経済力」（奈良県50.4%・全国平均39.8% その差+10.6%）

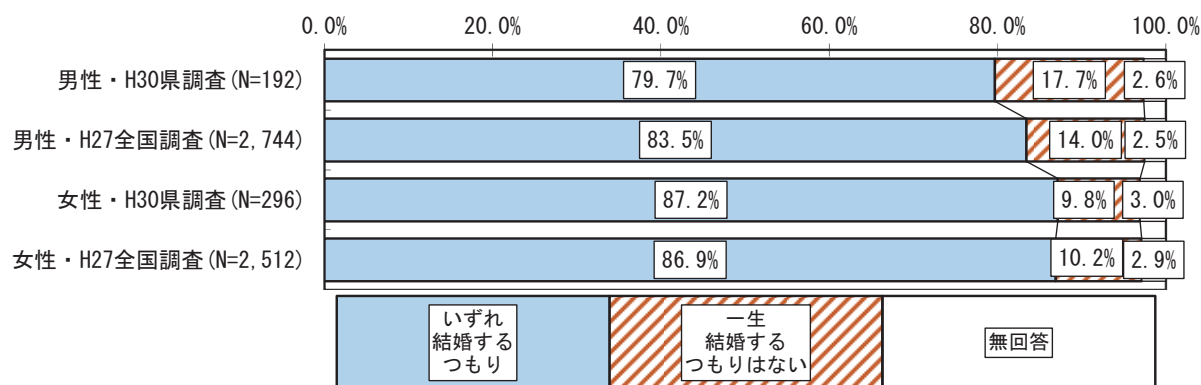
○夫婦調査では、結婚を決めたきっかけの第1位は「年齢的に適当な時期だと感じた」からだが、夫婦の約9割が（93.4%）、結婚してよかったと思っている

[夫婦が結婚を決めたきっかけ（降順）]

(1) 「年齢的に適当な時期だと感じた」62.3%

(2) 「できるだけ早く一緒に暮らしたかった」28.9%

【図表I いずれは結婚しようとする未婚者の割合】



※20～39歳の結婚経験のない未婚者